

安全データシート

アクリル酸 2-エチルヘキシル, モノマー

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: アクリル酸 2-エチルヘキシル, モノマー
CB番号	: CB1181395
CAS	: 103-11-7
同義語	: アクリル酸 2-エチルヘキシル, アクリル酸 2-エチルヘキシル

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: アクリル繊維・塗料・接着剤原料 (NITE-CHRIPより引用)
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日(物化危険性及び健康有害性)

R3.3.12、政府向けGHS分類ガイダンス(令和元年度改訂版(ver2.0))を使用

JIS Z7252:2019準拠(GHS改訂6版を使用)

物理化学的危険性

引火性液体 区分4

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 区分2

皮膚感作性 区分1B

発がん性 区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用、気道刺激性)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(鼻腔)

分類実施日(環境有害性)

平成20年度、政府向けGHS分類ガイダンス(H20.9.5版)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分2

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS07



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H315 皮膚刺激。

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H335 呼吸器への刺激のおそれ。

H401 水生生物に毒性。

注意書き

安全対策

P261 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレートの吸入を避けること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋を着用すること。

応急措置

P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

P304 + P340 + P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P333 + P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断 / 手当てを受けること。

保管

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: (±)-Acrylic acid 2-ethylhexyl ester
化学特性(示性式、構造式 等)	: C ₁₁ H ₂₀ O ₂
分子量	: 184.28 g/mol
CAS番号	: 103-11-7
化審法官報公示番号	: 2-990
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

眼に入った場合

予防措置として、水で眼を洗浄する。

飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

可燃性。

5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて自給式呼吸装置を装着する。

5.4 詳細情報

データなし

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。安全な場所に避難する。個人保護については項目8を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の吸収材に吸収させ、有害な廃棄物として処分する。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。蒸気やミストの吸い込みを避けること。

衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 10: 可燃性液体

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。光に敏感である。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

化学名 CAS番号 値 管理濃度 出典

メキノール 150-76-5 TWA 5 mg/m³ 米国。ACGIH限界閾値(TLV)

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

保護具

眼 / 顔面の保護

顔面シールドおよび保護メガネ NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすもので

なければならない。

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.4 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Camatril? (KCL 730 / Aldrich Z677442, Size M)

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.4 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Camatril? (KCL 730 / Aldrich Z677442, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

身体のプロテクト

化学防護服、特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

呼吸用保護具

リスクアセスメントによりろ過式呼吸用保護具が適切であると示されている場所では、工学的制御のバックアップとして、多目的直結式 (US) または ABEK 型 (EN14387) 呼吸用保護具カートリッジ付き全面形呼吸用保護具を使用する。呼吸用保護具が唯一の保護手段である場合、全面形送気マスクを使用する。NIOSH (US) または CEN (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

物理状態 液体 (20°C、1気圧) (GHS判定)

色 無色

臭い 特徴的な臭気

-90°C (ICSC (2003))

213.5°C (ICSC (2003))

可燃性 (ICSC (2003))

0.7-8.2 vol% (NFPA (14th, 2010))

86°C (c.c.) (HSDB (Access on April 2020))

252°C (NFPA (14th, 2010))

データなし

データなし

データなし

水:100 mg/L (25℃)

log Pow =3.67 (ICSC (2003))

0.178 mmHg (25℃) (外挿) (HSDB (Access on April 2020))

0.880 g/cm³ (25℃) (HSDB (Access on April 2020))

6.35 (空気=1) (ICSC (2003))

該当しない

融点/凝固点

-90℃ (ICSC (2003))

沸点、初留点及び沸騰範囲

213.5℃ (ICSC (2003))

可燃性

可燃性 (ICSC (2003))

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

0.7~8.2 vol% (NFPA (14th, 2010))

引火点

86℃ (c.c.) (HSDB (Access on April 2020))

自然発火点

252℃ (NFPA (14th, 2010))

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

データなし

溶解度

水:100 mg/L (25℃)

n-オクタノール/水分配係数

log Pow =3.67 (ICSC (2003))

蒸気圧

0.178 mmHg (25℃) (外挿) (HSDB (Access on April 2020))

密度及び又は相対密度

0.880 g/cm³ (25°C) (HSDB (Access on April 2020))

相対ガス密度

6.35 (空気=1) (ICSC (2003))

粒子特性

該当しない

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

データなし

10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

以下の安定剤が含まれている：

メキノール (>=0.001 - <=0.11 %)

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

光に暴露されると重合する可能性がある。禁止剤がなくなると不安定となる。熱。光。

10.5 混触危険物質

データなし

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

【分類根拠】 (1)~(7) より、区分に該当しない。

【根拠データ】 (1) ラットのLD50: > 2,000 mg/kg (AICIS IMAP (2014)) (2) ラットのLD50: 4,000~6,000 mg/kg (SIAP (2004)) (3) ラットのLD50: 5.0 mL/kg (4,430 mg/kg) (EURAR (2005)) (4) ラットのLD50: 4,435 mg/kg (AICIS IMAP (2014)) (5) ラットのLD50: 6.5 mL/kg (約5,770 mg/kg) (EURAR (2005)) (6) ラットのLD50: 5,750 mg/kg (GESTIS (Access on April 2020)) (7) ラットのLD50: 6,500 µL/kg (5,739.5 mg/kg) (HSDB (Access on April 2020))

経皮

【分類根拠】 (1)~(6) より、区分に該当しない。

【根拠データ】 (1) ラットのLD50: > 2,000 mg/kg (AICIS IMAP (2014)) (2) ウサギのLD50: > 2,000 mg/kg (AICIS IMAP (2014)) (3) ウサギの

LD50: > 10,000 mg/kg (SIAP (2004)) (4) ウサギのLD50: 16 mL/kg (約14,180 mg/kg) (EURAR (2005)) (5) ウサギのLD50: 7,500 mg/kg (GESTIS (Access on April 2020)) (6) ウサギのLD50: 8,480 mg/kg (HSDB (Access on April 2020))

吸入: ガス

【分類根拠】 GHSの定義における液体であり、区分に該当しないとした。

吸入: 蒸気

【分類根拠】 データ不足のため分類できない。

吸入: 粉じん及びミスト

【分類根拠】 (1) より、区分が特定できないため、分類できない。なお、旧分類の情報源は現在確認できないため、根拠としなかった。ばく露濃度が飽和蒸気圧濃度 (1.765 mg/L) あるため、ミストが混在するものとしてmg/Lを単位とする基準値を適用した。

【根拠データ】 (1) ラットの飽和蒸気圧濃度での吸入試験 (8時間): 飽和蒸気濃度で死亡例なし (EURAR (2005)、AICIS IMAP (2014)、SIAP (2004))。 (2) 本物質の蒸気圧: 0.178 mmHg (25°C) (HSDB (Access on April 2020)) (飽和蒸気圧濃度換算値: 1.765 mg/L)

【参考データ等】 (3) マウスのLC50 (0.5時間): > 7.713 mg/L (HSDB (Access on April 2020))

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

【分類根拠】 (1)~(5) より、区分2とした。

【根拠データ】 (1) OECD及びEUのテストガイドライン類似の方法によるウサギを用いた皮膚刺激性試験 (4時間閉塞適用) において、全ての動物が強度の紅斑及び浮腫を示し、適用24及び72時間後の紅斑及び浮腫の平均スコアはそれぞれ3.2/2.7及び2.7/1.2であった。また、1/6例では適用3日後にスコア4を呈し、皮膚表層の化学火傷がみられた (EURAR (2005)、AICIS IMAP (2014)、GESTIS (Access on April 2020))。 (2) US Federal Register (1964) ガイドラインに従いウサギの正常皮膚及び損傷皮膚に本物質を24時間閉塞適用した皮膚刺激性試験において、全ての動物が強度の紅斑及び浮腫を示し、24時間後及び72時間後の正常皮膚における紅斑及び浮腫の平均スコアはそれぞれ1.75/2及び3.25/3.25であった。なお、壊死性の変化は正常皮膚及び損傷皮膚のいずれにもみられなかった (EURAR (2005))。 (3) 人工皮膚モデル (EpiDerm) を用いた in vitro皮膚腐食性試験において3min、60minばく露後、生存率はそれぞれ99%、104%であり、腐食性物質ではないと判定されている (EURAR (2005)、REACH登録情報 (Access on June 2020))。 (4) 本物質は動物の皮膚に対して腐食性に近い刺激性を有するが、眼に対する刺激性は若干弱い (SIAP (2004))。 (5) 本物質は皮膚と眼に対し強度の刺激性を有する (HSDB (Access on April 2020))。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

【分類根拠】 (1)~(4) より、区分に該当しないとした。新しいデータ (1)~(4) が得られたことから分類結果を変更した。

【根拠データ】 (1) OECD TG 405に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験において、軽度の刺激性を示し、角膜混濁、虹彩、結膜発赤、結膜浮腫の適用24時間後から72時間後の平均スコアはそれぞれ0.1、0.1、0.2、0.1であり、全ての所見は3日以内に消失した (EURAR (2005)、AICIS IMAP (2014)、GESTIS (Access on April 2020))。 (2) US Federal Register (1964) ガイドラインに従いウサギを用いた眼刺激性試験において、中等度の結膜刺激性がみられたが角膜及び虹彩への傷害はみられなかった (EURAR (2005))。 (3) ウサギの眼に本物質 (0.1 mL) を適用した眼刺激性試験で軽度あるいは明らかな結膜充血及び一部に軽度の浮腫がみられた (EURAR (2005))。 (4) OECD TG 405に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で24/48/72hにおける角膜及び虹彩の平均スコアは2未満、結膜発赤及び結膜浮腫の平均スコアは1未満であり、全ての反応は72時間後には消失した (REACH登録情報 (Access on June 2020))。

【参考データ等】 (5) 本物質は皮膚と眼に対し強度の刺激性を有する (HSDB (Access on April 2020))。

呼吸器感受性

【分類根拠】 データ不足のため、分類できない。

皮膚感受性

【分類根拠】 (1)~(4) より、区分1Bとした。細区分可能なデータ (1) 及び (2) が得られたことから細区分を行った。

【根拠データ】 (1) モルモットを用いた皮膚感受性試験 (マキシマイゼーション法、皮内投与 1%) において陽性 (陽性率: 26~57%) と報告されている (MAK (DFG) vol.16 (2001))。 (2) TG 429に準拠したマウス局所リンパ節試験 (LLNA) 2試験において陽性と判定され、EC3は9.7%及び18.96%と報告されている (AICIS IMAP (2014)、REACH登録情報 (Access on June 2020))。 (3) 本物質はアクリル系接着剤に対する皮膚炎を示

す7人のボランティア等に対するパッチテストで陽性であった (EURAR (2005)、MAK (DFG) vol.16 (2001)、AICIS IMAP (2014)、HSDB (Access on April 2020))。 (4) モルモットを用いた皮膚感作性試験 (FCA test及びPolak法) において陽性と報告されている (EURAR (2005)、MAK (DFG) vol.16 (2001)、AICIS IMAP (2014))。

【参考データ等】 (5) 本物質にばく露される可能性のある労働者約 900人に対する調査で本物質に対する感作性あるいはアレルギー反応はみられなかった (EURAR (2005))。

生殖細胞変異原性

【分類根拠】 (1)、(2) より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】 (1) in vivoでは、マウス骨髄細胞を用いた染色体異常試験では試験方法に問題もあり曖昧な結果との報告がある (EURAR (2005))。 (2) in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、ヒトリンパ球及び哺乳類培養細胞の小核試験で陰性、哺乳類培養細胞の不定期DNA合成試験で陰性、姉妹染色分体交換試験で弱陽性、マウスリンフォーマ試験で弱陽性、染色体異常試験で曖昧な結果、HPRT遺伝子突然変異試験で陰性の報告がある (IARC 122 (2019)、EURAR (2005))。

発がん性

【分類根拠】 ヒトでの発がん性に関する情報はない。(4) の通りマウスの発がん性試験でみられた皮膚腫瘍は本物質の刺激性によるものとする評価もあるが、(1)、(2) より最新のIARCの分類結果に基づき区分2とした。

【根拠データ】 (1) 国内外の分類機関による既存分類では、IARCでグループ2B (IARC 122 (2019))、産衛学会で2B (産業衛生学会誌許容濃度の勧告 (2019年提案) に分類されている。(2) 雄マウス (C3H/HeJ) に本物質を一生経皮適用した発がん性試験では、高用量の適用で、皮膚の扁平上皮乳頭腫及び扁平上皮乳頭腫又はがんの合計の発生率、皮膚の乳頭腫、角化扁平上皮がん、悪性黒色腫、及び皮膚の線維肉腫の発生率の有意な増加が認められた (IARC 122 (2019)、EURAR (2005))。 (3) 雄マウス (NMRI) に本物質を2年間経皮適用した発がん性試験では、本物質投与に続いて既知プロモーター (12-O-tetradecanoylphorbol-13-acetate) 処置の有無に関わらず皮膚腫瘍の発生頻度の有意な増加はみられなかった (IARC 122 (2019)、EURAR (2005))。

【参考データ等】 (4) EUのリスク評価書では、マウスを用いた経皮発がん性試験でみられた皮膚の腫瘍は本物質の強い刺激性によるものであり、一過性の刺激を伴う低濃度の経皮発がん性試験では腫瘍は観察されなかったこと、本物質の加水分解生成物であるアクリル酸及び2-エチルヘキサノールでは腫瘍が認められなかったことから、本試験は本物質を発がん性物質とみる十分な証拠にはならないとしている (EURAR (2005))。また、GESTISでもマウスを用いた経皮発がん性試験でみられた皮膚腫瘍の増加は局所刺激によりもので遺伝毒性によるものではないとしている (GESTIS (Access on April 2020))。

生殖毒性

【分類根拠】 (1) のデータのみであり、データ不足のため分類できないとした。

【根拠データ】 (1) 雌ラットの妊娠6~20日に吸入ばく露した発生毒性試験において、母動物毒性 (体重増加抑制、摂餌量減少) 用量においても胚/胎児に影響はみられていない (EURAR (2005)、AICIS IMAP (2014)、HSDB (Access on April 2020))。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

【分類根拠】 本物質のヒトでの単回ばく露に関する報告はない。(1)~(3) より区分3 (麻酔作用、気道刺激性) とした。

【根拠データ】 (1) 本物質のラットの単回経口投与試験では1,810 mg/kg (区分2の範囲) 以上で立毛、2,803 mg/kg (区分2超の範囲) 以上でふらつきや腹臥位、4,444 mg/kg (区分2超の範囲) で下痢の症状がみられ、致死量以下で無関心や昏睡もみられた (EURAR (2005)、AICIS IMAP (2014)、REACH登録情報 (Access on June 2020))。 (2) 本物質のマウスの単回経口投与試験では5,000 mg/kg (区分2超の範囲) で自発運動量の減少、運動失調、腹式呼吸の症状がみられた (EURAR (2005)、REACH登録情報 (Access on June 2020))。 (3) 本物質のラットの単回吸入ばく露試験では、飽和蒸気 (濃度不明) で鼻や眼への刺激が示されたとの報告がある (EURAR (2005)、AICIS IMAP (2014)、REACH登録情報 (Access on June 2020))。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

【分類根拠】 本物質のヒトでの反復ばく露に関する報告はない。(1) より、実験動物において区分2の用量で鼻腔への影響がみられたとの情報があったことから、区分2 (鼻腔) とした。

【根拠データ】(1) 本物質のラットの90日間吸入暴露試験において、30 ppm (0.225 mg/L、区分2の範囲) 以上で嗜眠、眼瞼下垂、嗅上皮の限局性又はびまん性変性、100 ppm (0.750 mg/L、区分2の範囲) で鼻腔前部の嗅粘膜変性がみられた (EURAR (2005)、AICIS IMAP (2014))。

誤えん有害性*

【分類根拠】 データ不足のため分類できない。

* JIS Z7252の改訂により吸引性呼吸器有害性から項目名が変更となった。本有害性項目の内容に変更はない。

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - *Leuciscus idus* (コイの一種) - 23 mg/l - 48 h

備考: (IUCLID)

ミジンコ等の水生無脊

EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 17 mg/l - 48 h

椎動物に対する毒性

備考: (IUCLID)

藻類に対する毒性

IC50 - *Desmodesmus subspicatus* (緑藻) - 44 mg/l - 72 h

備考: (IUCLID)

微生物毒性

EC50 - *Pseudomonas putida* (シュードモナス - ブチダ) - > 10,000 mg/l - 30

min

(DIN (ドイツ工業規格) 38412)

備考: (乳化剤として)

(IUCLID)

12.2 残留性・分解性

生分解性

結果: 75 % - 易分解性。

(OECD テスト ガイドライン 301C)

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壌中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

水生生物に毒性。

環境への放出は必ず避けなければならない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）: 3334

14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）: 非危険物

IMDG（海上規制）: Not dangerous goods

IATA-DGR（航空規制）: Aviation regulated liquid, n.o.s. ((2-ethylhexyl)acrylate)

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）: 9

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）: III

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）: 非該当
非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

15. 適用法令

労働安全衛生法

-

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)

-
毒物及び劇物取締法

-
消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)【5 第三石油類非水溶性液体】

海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)【5 アクリル酸2-エチルヘキシル】

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本

MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。